

## 令和2年度第3回小諸市総合計画審議会 議事概要

令和2年11月11日（水）開催

開催日時 令和2年11月11日(水)午後2時00分から

開催場所 小諸市役所 第1、第2会議室

出席委員 西村廣一、中村健、相原良男、鈴木隆、佐藤英人、古屋昌和、寺島克彦、河野敦、  
依田孝彦、佐藤重、富岡淳  
以上11名

(欠席委員：小山田武、山下千鶴子、以上2名)

## 1 開会（進行：企画課長）

### 2 あいさつ

（市長）

本日は、お忙しいところ、令和2年度 第3回総合計画審議会にご出席いただき、誠に感謝申し上げます。また、日頃から市政の推進に対して、一方ならぬご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

寒くなる中で、コロナウイルスの第3波が来ている状況であり、長野県下においても毎日感染者が出ている。東信地区はそれほど発生しておらず、小諸市に設置されたPCR検査センターでは週2回検査を行っている。感染者を抑えつつ、経済対策、生活支援をしっかりと実施していきたいと考える。今までの2回の審議会では、私から審議会へ第11次基本計画案の諮問をさせていただいたあと、前年度の施策評価に関する意見などを委員の皆様からいただくとともに、本題である第11次基本計画案の政策1から政策6に関して、活発なご審議をいただき、誠に感謝申し上げます。今回の審議会については、今まで委員の皆さまからいただいた意見や、議員の皆さまからいただいた意見、また、パブリックコメントにより市民の皆さまからいただいた意見を踏まえ、修正や調整等をさせていただいた部分について、事務局より説明を行ったあと、皆様からご意見をいただく形で審議していくので、よろしくお願ひしたい。これまでの意見を踏まえ、審議会から答申をいただく予定になっているが、最終的には、答申をしていただいた内容に沿って、第11次基本計画案を12月議会へ上程することとなっているので、よろしくお願ひしたい。最後になるが、当市の行政経営、さらには地域経営の質の向上のため、忌憚のないご意見、真摯なご議論をお願ひ申し上げ、第3回の審議会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願ひ申し上げます。

（会長）

本日の会議の趣旨等は、市長のあいさつの通りである。修正案をもとに、第11次基本計画案をまとめ上げたいと思うのでご協力をよろしくお願ひしたい。さて、新型コロナウイルス感染症により生活が一変し、何があるかわからない不透明で不確実な時代となった。アメリカでワクチン製造される話もあるが先行きは不明であり、この不透明な時代だからこそ、受け身ではなく一歩でも前に出て積極的に物事を進めることで、物事を打破出来るのではと思う。本日はよろしくお願ひ申し上げます。

### 3 協議事項

（1）小諸市第11次基本計画（案）について

（事務局より、パブリックコメントの実施結果及び修正内容を資料に沿って説明）

（会長）

コーディネーター、事務局からの説明について補足はあるか。

(コーディネーター)

「前年度より改善」という表現について、具体的な数値を記載するように変更したとのことであるが、評価の際には注意が必要であるかと思う。今回設定した数値に縛られるのではなく、前回の数値より良くなったかどうか、という視点を持って評価を行うことが大切である。

(会長)

修正内容について、意見、質問等はあるか。今回の修正で高校について追記があったが如何か。

(委員)

小諸の資源と言え、豊かな自然・歴史・文化であり、小諸市民が幸せに生きていくことを考えた時には、生活基盤や、働く場所などであるかと思う。100年時代に突入することを考えると、生きがいということも重要である。委員の皆様も様々な分野でご活躍されており、それぞれの分野での学びが生きがいにつながる。各施策を統括する言葉として、学びという言葉を使っただくのはどうか。急激な人口減少の中であって、各地の街が寂しくなっていく中で、小諸はコンパクトシティ構想のおかげか、街が明るくなっているように感じる。高校に関する記載を追記していただいたが、小諸の新高校がまちづくりの大きな資源となるようご協力を賜りたい。

(会長)

施策6-1に追記があった「また、長野県が主導する高校再編について、市として参画していく」という記載については、施策1-1の現状と課題に小学校の再編の記載があるため、そちらに併せて記載するのはどうか。

(事務局)

高校の再編についてどの施策に記載するか検討した際に、実際の取り組みがある施策に記載すべきであると判断した。施策1-1は義務教育に関する内容が主である。高校再編については、担当課は企画課であり、協働やまちづくりという観点から施策6-1に記載させていただいた。

(委員)

全体に言えることであるが、施策1-1を例に挙げて申し上げる。学力が全国平均より劣っているという中で、全国学力調査を目標指標としているが、「ICT環境の充実等に取り組む」という記述があるが、それにより教員の負担が減り学力の向上に繋がるということなのか。学力を上げるために何を行うかが書かれていないように思う。

(事務局)

政策・施策には、それぞれの方針や役割、どういう姿勢で取り組むかが書かれており、具体的な実施する内容については、毎年、作成かつローリングを行っている実施計画の中に記載することとなっている。ICTについては、ネット環境の整備や、児童・生徒一人一人に端末の整備、また、教職員の方々の働き方改革についても様々な取り組みを実施している。政策1及び施策1

－1には、総論として、子ども達の生きる力を育成するということを書かせていただいている。各施策に記載している主な事業などで具体的な実施をしており、政策・施策は方針を記載したものである点をご理解いただきたい。また、毎年6月に前年度の評価を庁内でさせていただき、その評価結果を夏ごろに総合計画審議会でご報告させていただいている。

(委員)

コロナ禍で貧困家庭が増えている中で、塾に通えない子どもが増えているかと思う。以前、リーマンショックの時も同様の状況があった。塾に通えない子どもへの援助を考えていただきたい。

(事務局)

就学援助という制度があり、例年は申請を行えるのは年度当初のみとしているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考え、年度の途中でも申請できるように変更した。

(委員)

教育という面では、今まで自然エネルギー教室や小学校5年生に懐古園案内などを行ってきたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により一度も実施できていない。市民と子ども達が一緒に学ぶ機会について、いずれかの施策に盛り込んでいただけるとありがたい。

(事務局)

子ども達を育てていくには、ご家庭の皆さん、地域の皆さんの力も必要不可欠であり、協力して行っていきたい。基本計画と並行して教育振興基本計画も策定作業を行っており、そちらに具体的な内容が盛り込まれている。

(委員)

芦原中学校で廃止となった部活もあり、中学校単位で部活動を維持するのも難しくなっている。空手や弓道など市民サークルの延長で、子ども達と一緒にやる活動が増えているように感じる。市民クラブのようなところに中学校の部活動を取り入れていくような方策も良いのではないかと。SDGsは2030年のビジョンを思い浮かべて、今何が必要かというバックキャストの視点が求められている。管内閣もカーボンニュートラルを掲げたが、小諸市においても、2030年に向けてどのようなビジョンを持つかということをも市民の間でも議論が必要であると思うし、市としても2030年に向けてビジョンを掲げてもらいたい。私の会社もSDGs登録企業となったので、電気・水道など毎月どれくらい使用しているか確認した。例えば、小諸市役所の中でもエネルギーをどれくらい使用しているか、職員の多様性がどれくらいあるのかなどを確認し、2030年に向けてどのようにしていくかを考えてはどうか。

(事務局)

SDGsの推進に向けた取り組みは、今回初めて基本計画に掲載したが、SDGsをあまり知らない人が多くいるというのが現状である。各施策にも掲載しているが、基本計画以外に様々な個別計画を策定している。そういった個別施設計画についても、SDGsを意識した内容となる

よう庁内で調整をしていきたいと思っている。また、広報にもSDGsの連載を開始しており、若い世代を取り組んでSDGsの推進を行っていきたい。

(委員)

施策1-1について、目標値に体力調査を設定しており、当然、学校の体育などは関係してくるが、日常生活も大きく影響している。地方は土地がたくさんあるため、立派な公園はあるが、車で少し移動しなきゃいけないという状況が多く見られる。その反面、都会は生活圏内の身近な位置に、ボール遊びや体を動かすことができる施設があるように感じる。そういったことを考えると学校に関係する事業のみではなく、公園事業も大きく関係している。総合的な観点から取り組んでいかないと、なかなか目標値を達成できないのではないかと。また、空き家については、新築・空き家契約数が伸びても、空き家そのものが増えてしまっただけでは意味がないため、実質的な数値を確認していくことも重要である。職員について言えば、市の職員の意識が増えても休職する職員が増えては意味がないし、優秀な職員がたくさん育っても離職率が高くては意味がない。目標値には出てこない、実質的であり、裏に位置する数値について確認することと、市役所がトータルで取り組んでいくことが重要であると考えている。

(会長)

縦割り行政になりがちだが、全国において自治体全体で上手く取り組んでいる事例があれば教えていただきたい。

(委員)

上手く取り組んでいる自治体の共通点は、核を決め、それにベクトルを合わせて取り組んでいる点であると思う。例えば、ある自治体では「雇用の創出」を一番に掲げ、雇用創出により人口減少を防ぐことに特化し、全ての部署がベクトルを合わせ取り組んでいる。ある自治体では「教育」を中心に動き、義務教育だけではなく、子育てや社会教育などあらゆる視点で連携して取り組んでいる。

(2) 答申(案)について

(副会長より、答申案について資料に沿って説明)

(会長)

これまでの審議を踏まえ、私と副会長、事務局で答申案を作成した。何かご意見等あれば、この場で議論をお願いしたい。特に、市内外に小諸のことをPRするためには、市職員はもとより市民が小諸のことをよく知る必要があり、10番の項目を盛り込んだ。

(委員)

10番の項目について、「市民の参加」という言葉も盛り込んでも良いのではないかと。情報発信

につながる仕組みだけではなく、そういった活動に市民が参加できる仕組み作りが重要であると考える。

(事務局)

いただいたご意見については、会長と相談し、文言等修正を行うか検討させていただきたい。

(会長)

ご意見のあった「市民参加」については、広い意味では 10 番の項目に含まれているように思う。他に、意見等あるか。

(他に意見なし)

(会長)

答申については、このあと事務局と文言等を検討し、私と副会長が代表して市長へ答申を提出する。

(3) その他

(会長)

その他、事務局から報告等あればお願いしたい。

(事務局)

第 11 次基本計画案については、12 月議会に議案として提出し、可決後に冊子ができあがった所で委員の皆様にお送りさせていただく。基本計画の審議は以上となるが、本年度内にまち・ひと・しごと地方創生総合戦略の策定を予定しており、そちらについてもご審議いただきたい。1 月下旬から 2 月下旬に審議会の開催を考えているのでよろしくお願いしたい。

(会長)

最後に、委員から何か意見・質問等あるか。

(委員)

これまで皆さんが力を合わせて作り上げてきたと思うが、計画はゴールではなくスタートであるので、この内容を実行に移していただくようお願いしたい。

(市長)

お忙しいところ、短い期間に 3 回のご審議をいただき、誠に感謝申し上げます。今年、コロナウイルスの影響もあり、4 年前より腰を落ち着けて、しっかりと議論し、審議会にかけさせていただいた。議会やパブリックコメントでの市民からの意見により、修正をかけさせていただき、良い形でまとまった。委員の方からも意見があったが、スタートラインに立ったということである

ので4年間で形にしていきたいと考える。これから市民の皆様に参加していただき、色々な方々にご協力をいただいて進めていかなければならない。コロナ禍において、人口減少についてはチャンスが来ているようにも思う。多くの自治体が人口減少に苦しんでいる中で、人口減少を少しでも食い止めて持続可能なまちにしていくかということが大きなテーマであるが、地域間の競争、自治体間の競争であることは仕方がない。色々な企業と接する中で、100年以上継続している企業は芯がしっかりしているが、しなやかであり、時代に対応ができています。こういった点を我々も見習わなければなりません。時代を先取って、時代に流されず、芯を持っていかなければならないが、芯という部分が第11次基本計画に当たる。ここからがスタートであるので、委員の皆様からは、これからも様々な意見を賜りたい。また、小諸市がこれからも市民の皆様にあいさされ、持続可能なまちであり続けるためにお力添えをお願い申し上げます。

#### 4 閉会

午後4時10分終了